

萌えレス 25
アマゾン・ワールド

死闘メガネっ娘4



はじめての 後編 せっくす勝負

地味ッ娘秘めレスリング 3

@パラレルワールド 二人ともメガネをしてない世界 全2試合収録

Meto

<プライベート・レークレットレスリング>

メガネっ娘対決 委員長同士

モモ vs アミ ～えっちくらべ 後半戦～ p 3

<パラレルワールド編> ふたりともメガネをしていない世界

いけない放課後

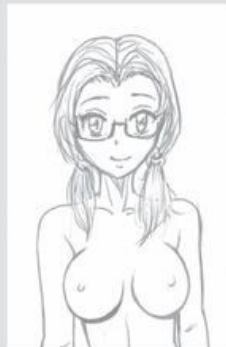
もっと♡ひみつのプロレスごっこ 後編 p 120

惑星アマゾニア

幾つかの王国が存在する平和な世界である。

女性型生命体だけが生息し、独自の文明が築き上げられていた。王家・王族や貴族が庶民のために繰り広げるレスリングは、娯楽と同時に、見るものに医療効果をもたらしたり、活力、活気を与えるものだった。

レスリングは当然、王族や貴族達のものではなかった。大衆、庶民、誰もがたしなみ、公的に、或いは私的に、日々さまざまな形のレスリング大会やプライベートなレスリングが行われていた



モモ 86-58-88 158cm 58kg
泣く…まで…。やります。でも、泣いても…、許してあげない…です」



アミ 88-60-90 160cm 56kg
「悪いコになります。泣かせます。でも、泣いても許してあげません」

優等生、委員長という肩書きと立場を捨てて、情け容赦なく互いにワザをかけあい、痛めつけ合うデスマッチごっこに興じるふたり。戦うほどに、肌を合わせるほどに、内に秘めたさらに淫乱な衝動が頭をもたげる。

このコだったら大丈夫。密かに興味を持っていた「大人のレスリング」の知識をためしちゃう…！
せっきすばとる…

ウブな、しかしとどまることを知らない性欲のままに、激しく互いを責めさいなみイカせ合うふたり。

イカせるだけなら意外と簡単…。イクのをガマンして、先に相手が崩れ落ちるのを見るのってステキ！
ふたりの委員長が、己の肉欲のままに相手をむさぼり合う。



「あたして、信じられないくらいえっち」「このコ、信じられないくらいスキモノ…！」
互いの思いが一層性欲を駆り立てる。
負けないんだから…
ふたりのはじめてのせっきす勝負はエスカレートの一途をたどっていた。



委員長同士

モモ vs アミ

えっちくらべ

後半戦

メガネっ娘対決



「いあ ああ~~~~!!」

「おお~~~~!!」

負けていた少女と、負められていた少女が同時に絶頂を迎えてアクメ声を張り上げる。

一見引き分けに見えるが、上になった少女は、液体をまき散らしながらまだ腰を上下に振り、あそこを押しつけ合うのをやめていない。

アレが強い方の勝ち、という取り決めなんて当然ない。

ただ、よりスケベな方が勝つ

生物としての生命力が強い方が勝つのは、自然の理。

アマゾンでは、レスリングもこのセックス勝負の延長にある。初めての「H勝負」を繰り広げるふたりの少女たちにとって、それが文明の根源に通じる行為だという認識はない。

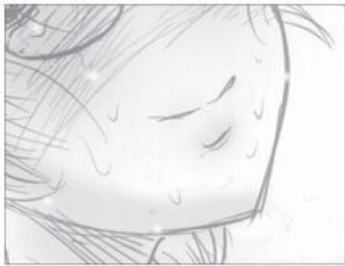
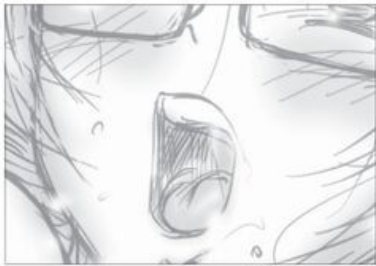
原始的な肉と肉の交わりが生み出す淫らな雰囲気、酔い、夢中の刻を過ごしていた。



ああ、ああん
もう何度目の絶頂に
身を震わせるアミ。



「あみちゃん、ぎぶ、ぎぶうー！」
モモがあえぐように連呼した。
「モモちゃん ももちゃんっ〜〜！」
大きなおっぱいをばるん/バルンと弾ま
せながら、アミも一心に相手の名を
呼ぶ。
これが、密かにあこがれていたセック
スバトル。
ベッドに入って、イカせ、イカされる
淫らなバトルを想像しては、人知れず
ひとりHしていたことは、ふたりとも
ヒミツだった。
「叶った夢」のまっただ中…
でもこれは、数知れない仮想バトル
のひとつに過ぎなかった。





モモの上からゆっくりどきながら、片足をクロスして腰を下ろし、アミはいわゆる「貝合わせ」スタイルに入った。

悶絶していたモモも、ゆっくり体を起こしてくる。ざゅっと、自分の股間を相手のそれに押しつけるふたり。互いの秘部の熱さが互いを包み込み合うみたい感覚に、再び性欲が駆り立てられてくる。上に乗って、有利な体勢でしかけると違って、条件は全く対等だ。熱を持った丸い丘同士がくっついているだけでも、思わず腰を引きそうになるくらい気持ちいい。

手四つで、手のひらを合わせる時の緊張感。自信あるけど、もし相手の方が強かったら？ はじめる前の、あの不安に似た思い。どうなっちゃうのかな…？

はじめて体験する貝合わせ。もう何度もいっちゃってるのに、まるではじめてHする時みたいに、乳首が硬く「おったって」くる。

ふたりは、ゆっくりと腰を動かしはじめた。





押しつけあったあそこが、ぐりんぐりと互いを弾き合い、食い込んだ。
「アン」と相手のうめき声。
しかしすぐさま相手は上下に腰を動かしながら押しつけてくる。
「ひいん…」突き出したツノがこすれあい、食いしばった口から
情けないくらい可愛い声が漏れてしまう。
こすりつけ合う責め地獄に、よがり声を上げるモモとアミ。
イカせてやる…！ もうイキたい！ 矛盾する激しい思いが頭の中を、
あそこ全体を駆け巡る。夢のような根比べだった。





くっつけたあそこで相手の体重を、動きを全て受け止める。
後ろに伸ばした両腕で体重を支え、どちらも決して下がろうとしない。
「ふっん! あはん」互いに相手の情けない声が耳に入る。
「んん んん〜」
くいつクいつくいつと腰を突き出す動きに合わせておっぱいが上下に揺れる。
「んひッ クヒッ」やがて腰を左右に振り、そしてゆっくり回転運動を始める2人。
しかけている方が、イキそうだった。



「んあ あ…!」
（あ、ああ、いくう いっちゃう…）
体をふるわせてアミがのけぞった。
ぎゅうっとおまんこ同士が押しつけられ合い、やわらかな肉がムニッと盛り上がる。
「…め だめ…!」
モモも全身をふるわせながら、首を振っていた。
アミさん…つよい…弱気な思いがモモの心をよぎる。
「あへえ アへ…あへッ!」
（やだ…アへ声…あたし…あたし…!）
「モモさん、もう、もう…もうやめれえ…」
泣きながら、アミがうったえた。





ああん!



すごい…！ たまんない！
激しい絶頂を迎えると同時に、さらに
激しく求めるアミ。

「うああ、ああ」
失神するどころか、アミさん騒ってる…。
こんなの、こんなの…！
押しつけた股間に体重をかけながら、
身体をゆさぶって振動させている。
2人の大きなおっぱいが暴れ狂い、責
められる乙女が悶えながら泣き叫んだ。
「ひああ あうう ひあ ひィ…」
快感地獄にやり狂うモモの姿は、意
識朦朧としながら責め立てるアミを一
層駆り立てた。







「ん...んくう...」
絶頂を迎えてブルブルと身を震わせながら、口を
キッとつむり、こらえてみせるモモ。
自分も小さなアクメに震われながら、責めをやめな
いアミ。必死にこらえようとするものの姿が、なん
か憎らしく思える。



「んん…!」

ヤバイかも…

自分も、大きなアクメがそこまで来てる。でも構わず一層激しく腰を動かし、秘部で秘部を貫め立てるアミ。自分の丘を、相手のワレメを押し開き、食い込ませていくように。微妙な妖しげな腰つきは、こういった相責め戦が初めてには見えなかった。

三つ編みが踊り、おっぱいがイヤらしくうねる。

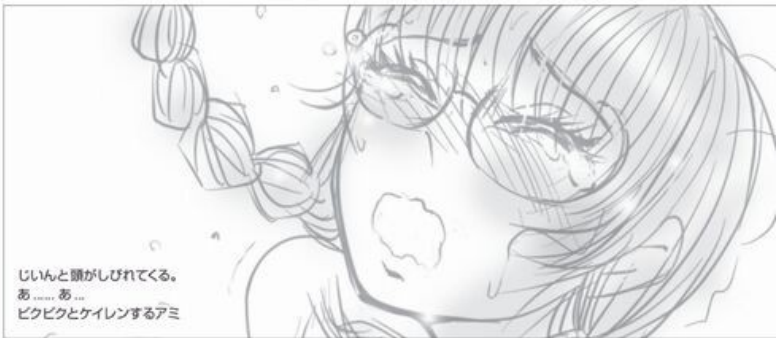
「んあ! や、やめ それ、ダメ… ああ」

おさげを振り乱し、泣きそうになってうったえるモモ悶えて頭を振る動きが、かえってさらに自分の乳房を揺らし、乳首に、おそくに響く。当然動く振動はアミへの攻撃にもなっていたが、モモはもう、大きな絶頂をこらえるのに必死だった。





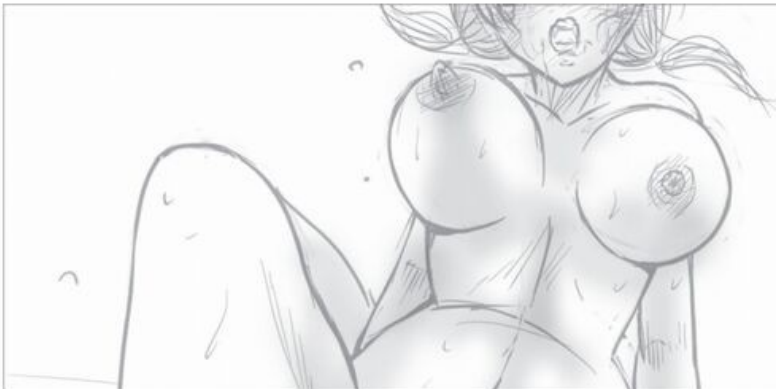
2 人の絶叫が響き、液体が勢いよく噴き出す音がした。



じいんと顔がしびれてくる。
あ……あ…
ビクビクとケイレンするアミ



あふい… あふい…
モモも絶頂の余韻に全身をがくがくふるわせていた。しかし、モモの肉体はその状態と裏腹に攻めに転じようとしていた。

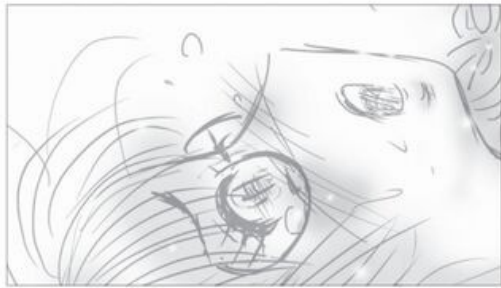


「アミさん、受けて立ちます…あたし」
(もっと、したい…あたし、あたしじゃ
ないみたい…)
リミッターが外れ、性欲のケモノとなっ
たモモが、同じ性欲のケモノに食らい
ついていた。

「ひああ～～！ んあ！ んあ」
押しつけられるって、こんなに…！
同じ責めをかえされて、その責め
の衝撃的な威力におっぱいをぶ
んぶん揺らしてよがり狂うアミ。



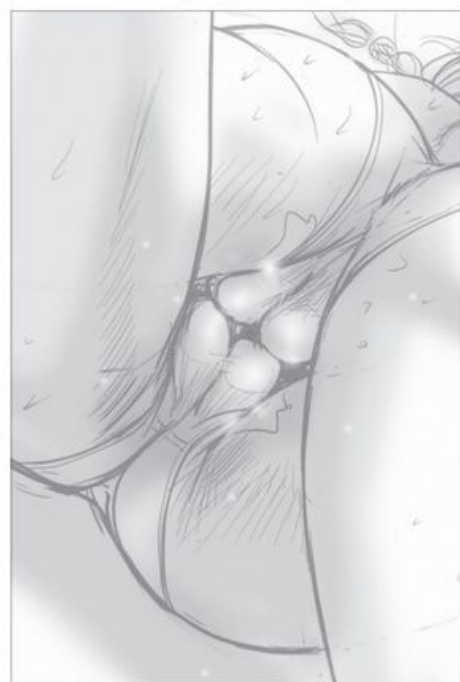




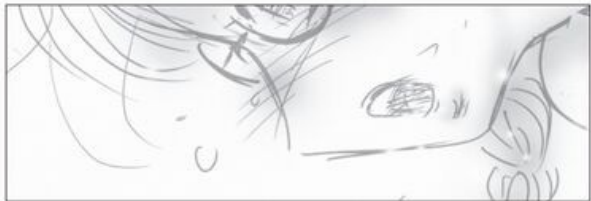
犯してあげる。
喰らってあげる。
相打ち覚悟…モモのそれは、むしろ相打ち狙いだった。
互いに「相打ちめ」を挑む。
それはとびきり淫靡な「相打ちごっこ」の始まりだった。
薄く、特殊仕様のパンツは、互いの陰毛すら感じ、時には絡みあった陰毛が引っ張りあい、今にもまた射精しそうなほどの刺激を与えていた。



「ああ〜！」
しかけた方がイク
もう、それも狙いどおり…！ …だけど、だけど…
おっぱいと性器を押しつけあいながら、アミに下
から抱き締められる。イキながら締めつけるアミ
と、攻めながらイカされるモモ。
発情したメス同士の壮絶なまでに内弾相打つ死
闘… せがくるいそお…！
「アオオ、おおおう あおん アン はああん〜」
よがりながら、重なりあった互いの肉体がもっと
もっとと激しく小舟のように揺れる。



「ああん」
んん！」体中で、犯してあげる！
ごろんと二人の体制が入れ替わった。
股間の熱い欲望の固まりが求めるままに、相手に襲いかかっていくアミ。



無意識に腰を振りまくり、股間をすりつけるふたりの委員長。
サカリのついたメスの肉体同士が、なりふり構わず互いを求め
合っていた。

「ウン、ウン、ウン ウン ウン…」

「あ…あん！ ああん …ん！ ンン んん〜！」

底なしのスタミナ…。やればやるほど、イケばイクほどなんか、
たかまってくる…

この星・アマゾンニアでは、性行為は、どちらかの心が折れない限
りは互いにスタミナを交換・補充し合い、無限快楽地獄になる。
初体験の「処女同士」がまぐわった場合、終わり方を知らないた
めに終日やり続けることも多いという。





「あ、ああん！」
「くあ あっつつっ！」
ほぼ同時にオルガスムスをむかえ、
ふたりのカラダが激しくケイレンする。
あいうち…いっしょ……
互いのカラダの熱さと、
びくびくするふるえが、
得体の知れない嬉しさと、
なんか悔しい思いをかき立てる。

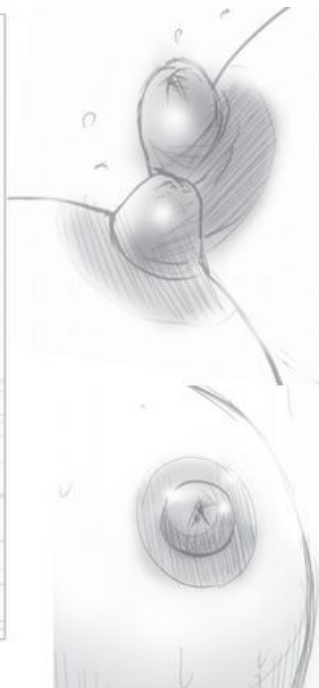




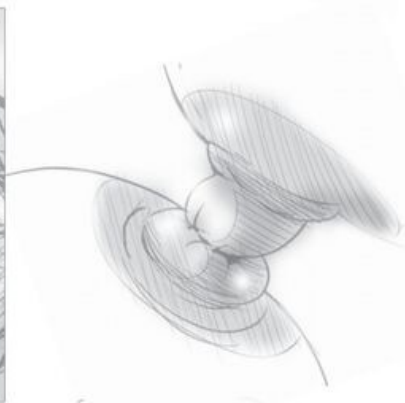
「ううう...」「んん...」
相手より先に、イキ疲れるなんて...
ほんとともう、お互いにぐんにやりした肉体が重なり
合っている。しかし同じ体制のまま、重ねたおっぱい
同士のパイズリ合戦を続けるアミ。
なんか、モモのおっぱいの方が先に、少しずつまた張
りを取り戻してくるかんじ...
相手のおっぱいの弾力に、自分のおっぱいがぐりんぐ
りんと...自分が仕掛けているのに負けてる気がする。

しかし、一方のモモも、柔らかくなったアミのおっぱ
いが再び重く、自慢の乳房に食い込んでくる...!
そんな負けそうな思いに、必死に首を振ってこらえて
いた。

乳房同士がせめぎ合うと同時に、下の方でも
秘肉同士が互いを食らい合うような死闘が繰
り広げられていた。

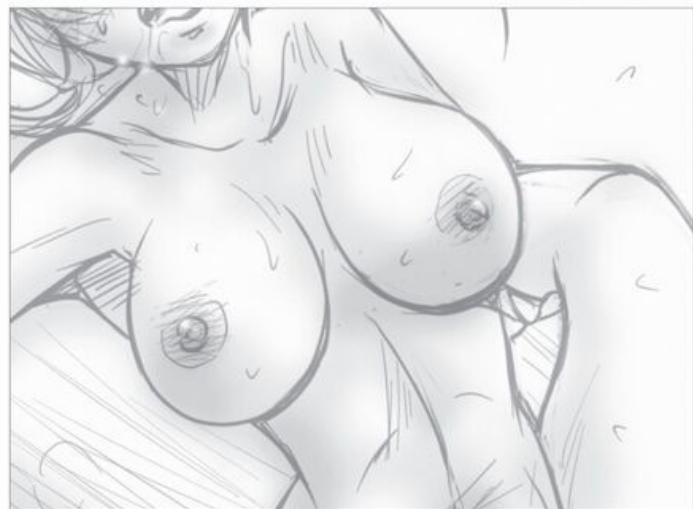


乳房同士がせめぎ合う中、当然のように
互いの乳首もこすれ合い、固くなった相
手の乳首をはじき、吸い付き、あるいは
突き上げ、そして刺す。快感の拷問ごっ
こを激しく繰り広げる。



「あ..あ... あ～～！」
「はあ はあ あづ ああ～～～ん！」
相手に抱きついたまま硬直したようになって、身体をケイレンさせるアミ。
下になったモモも、びくんびくんと両脚を踏らせていた。







ふたたび、貝合わせのがっぶり四つに組み合うふたり。
「んああ……！」可愛い声でアミがうめく。
「…んうう」ふしゅ、ふしゅと食いしばった歯の間から息
をつきながら、ももも甘ったるい声を上げた。気合いを
入れたつもりが、まるで攻めているようには聞こえない。



「ふあ、ふあああ〜〜！」
アミが情けない悲鳴を上げた。
貝合わせからの…松葉煎し責め…！
くいつくくいつくといやらしく腰を突き出して、
自分の股間で相手の股間を責め立てる。
はあ、はあ… アミさんの性器で、あたし、オナニー
してる… …燃えちゃう…！
罪悪感を抱えるようなフレーズを、わざと意識に出
してみろ。背徳感にいつそう劣情を駆り立てられて、
抱きかかえた相手の脚をぎゅっと抱えて乳房に押し
つける。
「んん んん！ んん！」
前に突き出すだけでなく、回すように押しつけていく。
「ああ アン あ、ももさん、や…っやだ…！」
相手の動きに、それがただ責め立てられているの
ではなく、ほんとに犯されているような気分になる。
逃れたいけど、逃げられない…
屈辱セックス

何度やり返しても、やられるっていう屈辱感と、やら
れながらイキオルガの快感は、そのたびに心を折ら
れそうになる。
おんなじ絶頂なら、主導権をとり続けたほうが有
利…。動きを止め、相手がほっとするのを見計らっ
て…うん、「なんでやめちゃうの？」っていう気持ち
が出たところで、さらに少しそのまま。…じらしてお
いて、再び責め立てる。
「んあ んああ もも…ももさん ももさん！
もう…もも…！」
アミが泣きながら懇願しはじめた。
もう少しだ♡





やったわね…!
はあ、はあ…!



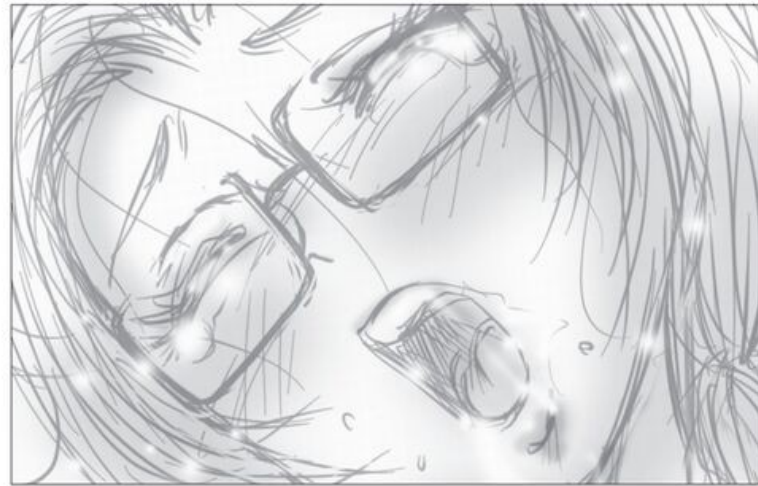
ああん！」松葉刷し返し…!
あ~~~~~
床に背中をつけたモモの肉体が妖しく悶えていた。身を起そうとしては、あそこを突かれてそのたびに倒されてしまう。上から押し割るような責め。ぐにっとされるたびに力が抜けちゃう..!
責める快感と責められる快感のシーソーゲーム。やられた側は、相手にどうやって泣かされたかを身体が覚えてる。やったことが、そっくりそのまま自分に返ってくる感じ。そして、やられて初めて自分の攻撃がいかに効果的だったかが、あらためて思い知らされる。
こんな攻撃に…このコ耐えたの？
飛び出したツノをぐりぐりされて、すぐにもイキそうな電流が体中を駆け巡る。
「あひ あひ あみさん あみさあん！」
相手の名を呼び、必死に耐えるモモ。

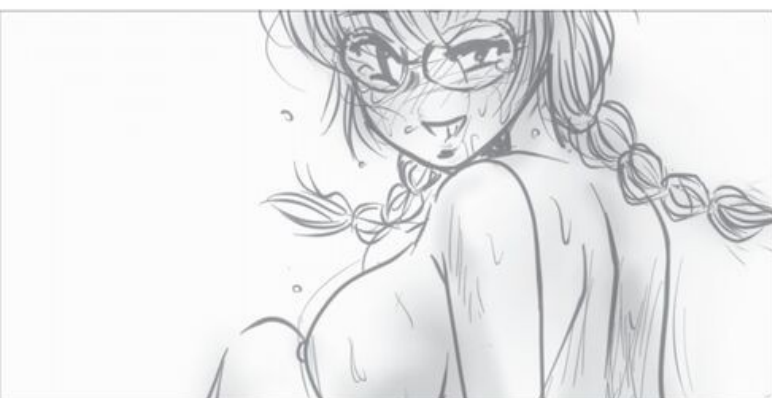


「…ツク ううん…」
顔をのけぞらし、プルぷるっ
と震えるアミ。

「ギブ ギブ あひい〜」
遠くて、相手の口の悲鳴が
聞こえる。イキ泣き声だ。
押しつけあった割れ目ちゃ
ん同士が、互いにまだびく
びくとはげしくふるえ、
ばくばくとねぶりあつて
る…。

しあわせな、甘い快感が体
を満たしてる。
しかしそれは、「次」への
導火線と同じだった。





はあ、はあ、はあ…
「へへ♡ ふえいしっ♡」
悶絶したモモの顔の上に
あみはゆっくり腰を下ろした。
相手の顔の起伏。新鮮な麻り心地だっ
た。モモの口や鼻の部分だろう。熱い
息を感じる。
これも、授業ではやったことがない。
そもそも、教えてくれない(笑)

顔の上に座ったままお尻を振ってみる。
口がぼくぼくしているのがダイレクトに
あそこに当たるのが気持ちいい。
ずっと昔、子どもの頃にちょっとだけ
やったり、やられたりしたことがあるだ
けで、「オトナになんきやっちゃいけ
ないワザ」だった。



「いけないワザ図鑑」や、「オトナの
レスリング必殺勝負〜充実したセッ
クスのために〜」とかでは、この体
勢から必ず紹介されている体位が
あったのを思い出す。
お布団相手にやってみたことはある
けれど… これも、しかけるときは
それ相応の覚悟がいる。でも、今の
アミにはかわいいものなんで…

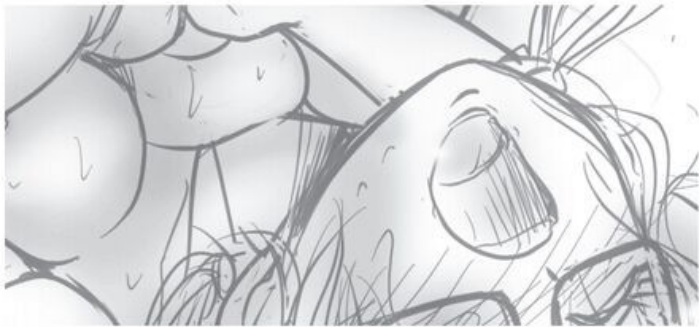


「いやあ、あああ～～～！」
お尻の下の方から、モモの悲鳴が聞こえる。
相責めワザの中でも、特にヤバイという濃厚な大人の
愛憎ワザ、69。
股間の、どこを責められたら一番キクか、どうされるの
が一番イヤかお互いもう十分確かめ合っている。
「決闘よ♡」 アミは、自分の股間にモモのアゴを押しつ
けながら、火のように熱いモモのワレメに下をはわせた。





最初の一口…相手の口がワレメに押し当てられる感触に、
最初はショックを受けたものの、すぐに反撃にかかるモモ。
「ひゃい!!」
今度は、アミがそのはじめて受けるシグキにピクッと衝撃を受けて
悶えた。69の勝負に慣れているものでさえ、最初の「一撃」に
は声を上げるという。
相手の舌や、くちびるの使い方によっては、その刺激・快感に耐え
られず、一方的に受けにまわることも多いって聞いてたけど…
「..あ... あん... あん...!」
口を開けて、反撃しようとするたびに声が出てしまう。
自分から仕掛けておいて、アミは軽弄されていた。



当然のように、モモも手塚攻撃で応える。



「やだあ だめえ ああん ああ〜! ハウ ひいん!」
二人の甘えるような悲鳴がとぎれることなく飛び交って、
69 のもうひとつの脚の激しさを物語っていた。
貝合わせよりも、はるかに声が出ちゃう…!
しかも、キク..う!
必死にならないと、攻撃できない
つい、相手の責めを受け入れて、求めちゃう…!
しかも... ああ、またイッちゃったああ!



「あ～ も、ももさん、やめ あああ～～ 指、ゆびい..」
「おう～～ あみ、あみさん それ以上入れちゃ..!」
アミにとっても、ももにとってもこれほどの快感地獄マラソンになるなんて予想外だった。員合わせ勝負なら、イカされてもすぐ、カラダが勝手に反撃してくれた。でもこれは…これって…!

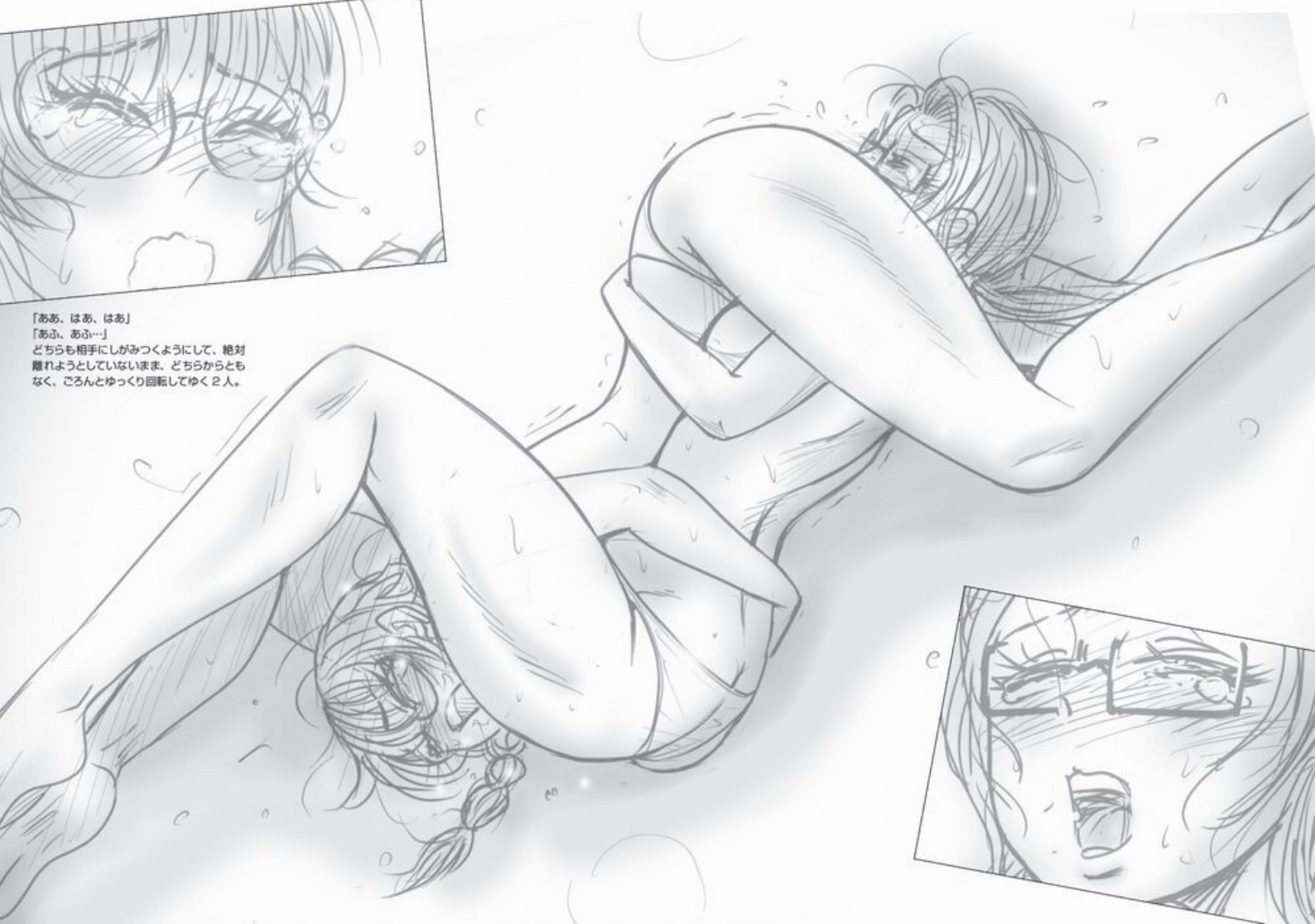
「ああ～～あん ああん」 「あひい あひ ひいい」
責めるより、責められたい…?
責めなきゃ 責めなきゃやられちゃう
でも ああ、もっとして もっとお…!
想像もしていなかった「おねだり合戦」だった。





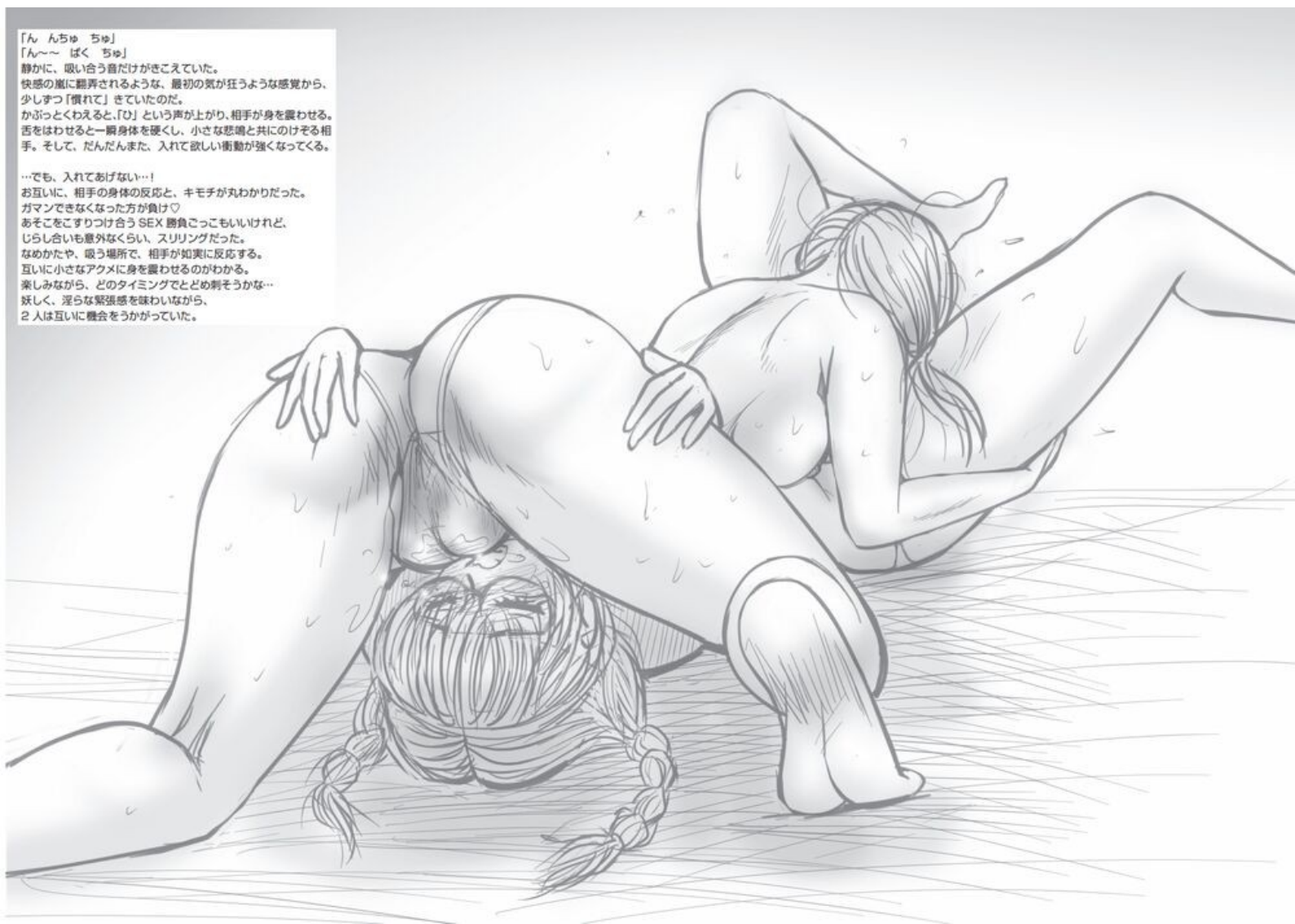
「ああ、はあ、はあ」
「あふ、あふ…」

どちらも相手にしがみつこうとして、絶対
離れようとしていないまま、どちらからとも
なく、ごろんとゆっくり回転してゆく2人。



「ん んちゅ ちゅ」
「ん～～ ばく ちゅ」
静かに、吸い合う音だけがきこえていた。
快感の嵐に翻弄されるような、最初の気が狂うような感覚から、
少しずつ「慣れて」きていたのだ。
かぶっとくわえると、「ひ」という声上がり、相手が身を震わせる。
舌をはわせると一瞬身体を硬くし、小さな悲鳴と共にのける相手。
そして、だんだんまた、入れて欲しい衝動が強くなってくる。

…でも、入れてあげない…！
お互いに、相手の身体の反応と、キモチが丸わかりだった。
ガマンできなくなった方が負け♡
あそこをこすりつけ合うSEX 勝負っこもいいけれど、
じらし合いも意外なくらい、スリリングだった。
なめかたや、吸う場所で、相手が如実に反応する。
互いに小さなアクメに身を震わせるのがわかる。
楽しみながら、どのタイミングでとどめ刺そうかな…
妖しく、淫らな緊張感を味わいながら、
2人は互いに機会をうかがっていた。





「ああ、あひいん…」
こらえきれず、先に泣き声を上げたのはモモだった。
さっきからもう、攻撃の口が停まっていた。
「~~~~~!」
全身をふるわせ、オルガスムスが訪れる。
(あーん…口だけで…イカされちゃった…)



「ん」

座り直すようにして、反撃に出るもも。

舌先で、ていねいにアミのワレメをなぞり、突き立てる。

「…七…」

一方的に真めている間、逆に高まっていたアミが小さくのけぞった。

小さく、まるで自転車こぐように脚をばたばたさせている。

必死にこらえながらのけぞる中で、くちびるが相手の股間に小さな突起を見

つけた。すっきり勃起したツノだ。

舌の先ちょでつつき、軽く歯を立てる。

「ひゃあん」

反射的に身を離そうとする脚をぎゅっと押さえ、逃がさない。

「ハアン！」

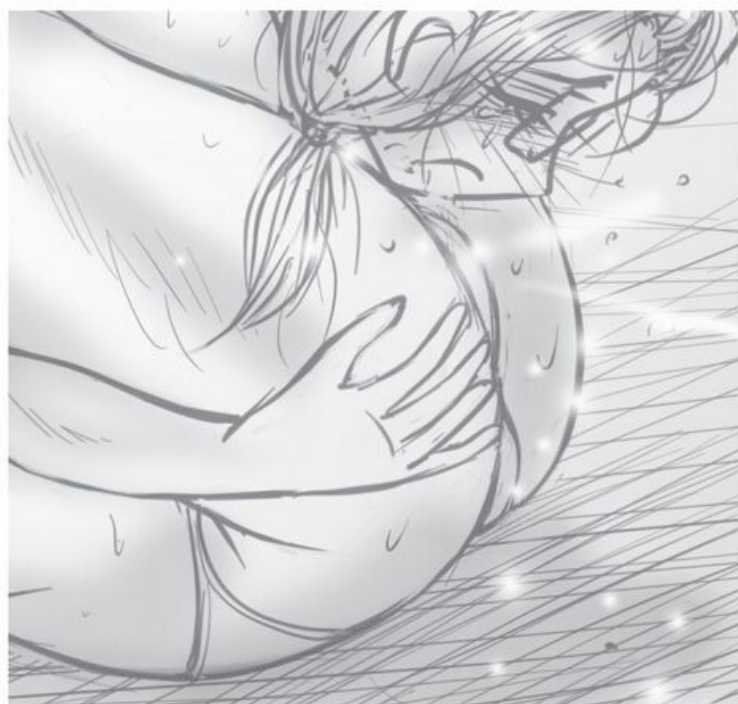
その直後、同じように突起をくわえられ、思わず口が離れてしまう。

互いの急所中の急所を狙い撃ち。

我を忘れそう…というより、もう、

2人とも今にもまたイキそうだった。





また、先に達したモモが噴くと、後を追うように噴射するアミ。
引き分け…？ いや…！ 勝負はまだついてないんだから…
なおも互いの股間にむしゃぶりつく2人。

最初、指のイレ合いで楽極をさらしあったのがウソのように、
じっくり、しつこい責めを繰り返すアミとモモ。

潮を吹きちゃうたびに、顔の中が真っ白になる。
でも、目の前に相手のあそこがあると、責めないでられない。
リミッターが外れた2人は、淫乱なケモノそのままに互いをむ
さぼり合っていた。



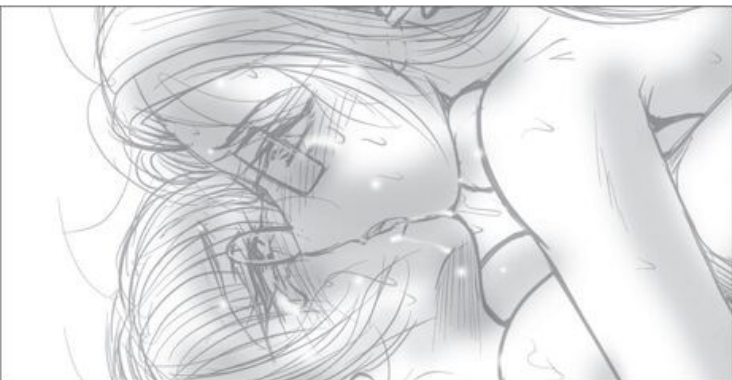




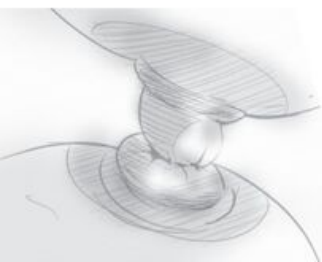
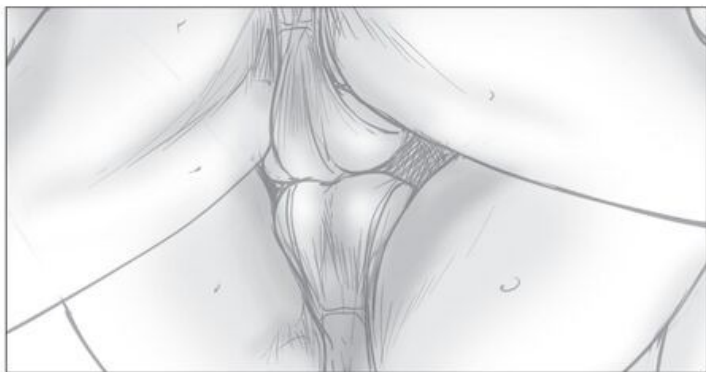


さあ、今度はそ課間タイム。
乳房でも、性器でも、アミさん、あなたを
徹底的にもてあそんであげますね。

乳房の内の中で乳首同士が絡みあい、翻っ
てるのがぐりぐりの感じでわかる。
さっきは負けちゃったけど、今度はおかえ
ししてあげる



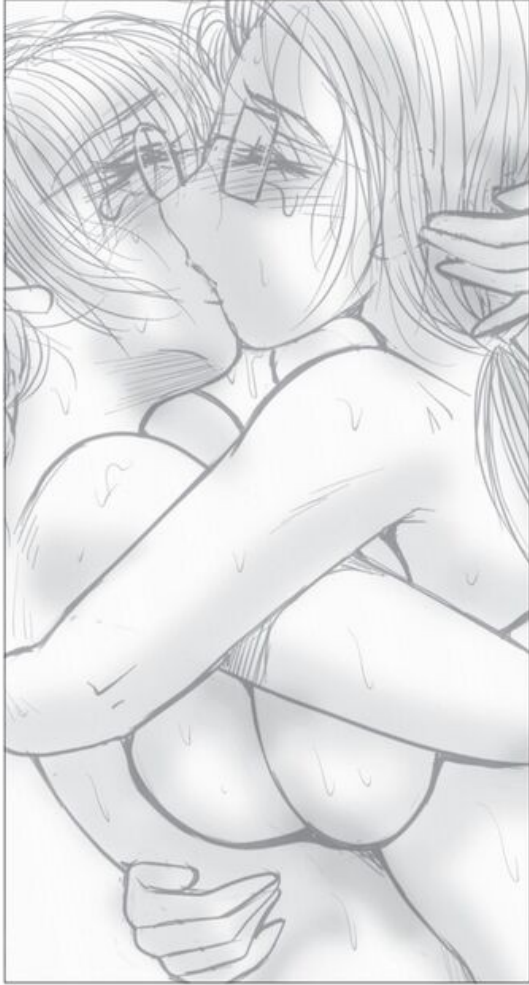
何度くっつけても、そのたびに新鮮に
気持ちいい。柔らかくて、あたたかくて、
それでいてはじけそうな弾力…
重ねただけでまた、イキそうだった。
でも …ぐりぐり…
重なり合ったお尻がいやらしくゆれる。



「ん、うん、ウン、ウン…」
上から押しつけ、腰をひねって、振って、
それから…
「ん、ん、ん！」前に、後ろに…
思いつくまま、というより、欲しがるままにお
尻を動かして責め立てるモモ。
「んああ あ あ」
くっつけ合ったほっぺたの下で、可愛いアミチャ
んが可愛い声で泣くようにうめき声を上げる。

ああ、あたし、さかっちゃってるう！
最初はゆっくりした動きが、どんどん激しくなっ
ていく。





「ん…」アミ…さ…ん…！
相手の身体ぎゅっとして、思わず、相手のくちびるにくちびるを重ねるモノ。
アミも、それを迎えるように相手に手を回していた。

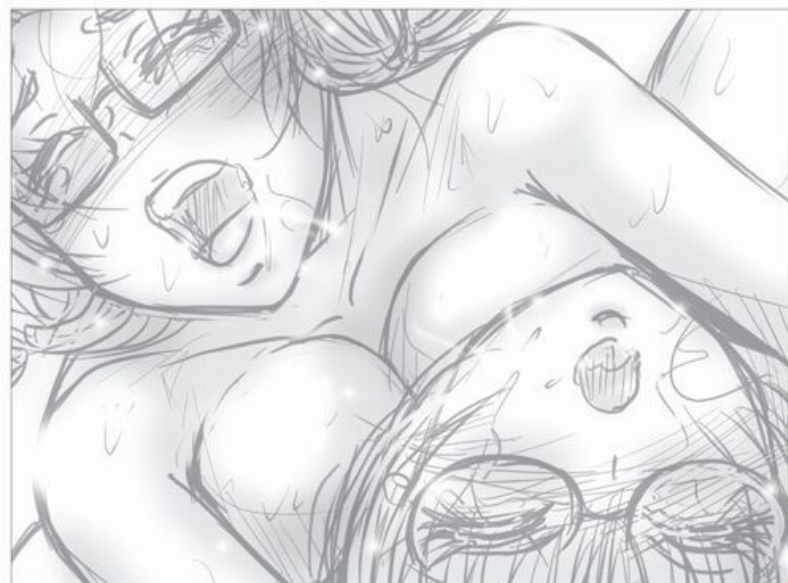


はあああん！
甘い絶叫と共に、「射精」するアミ。



「んあ…だめ…!」
モモも、身体をぶるぶると震わせた。
アミに劣らない勢いで、もう何度目になるかわ
からない恥ずかしい液体をふきだしてしまう。





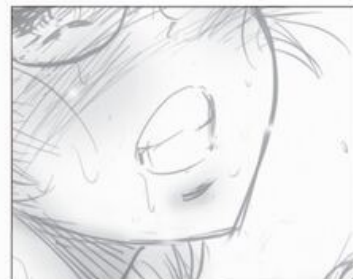
ゆっくりした動きで、2人のお尻がまわった。
こんどはアミがモモの上に乗っていく。





「ももさん! ぎぶう?!」
アミは思わず、反射的にそう叫んでいた。
レスリングも、セックスバトルごっこも、やっぱり同じ!
抜きたいし、気持ちいいけど、やっぱり抜いてやりたい!

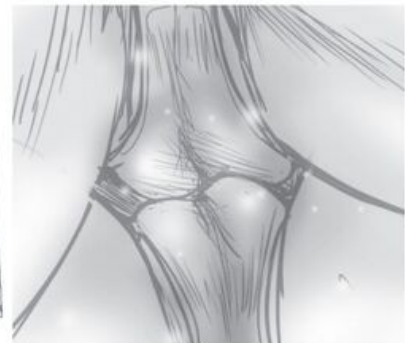
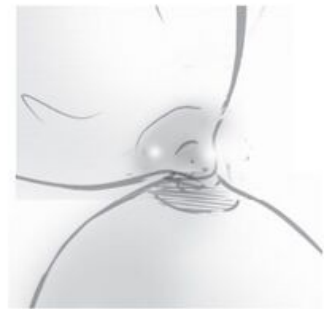
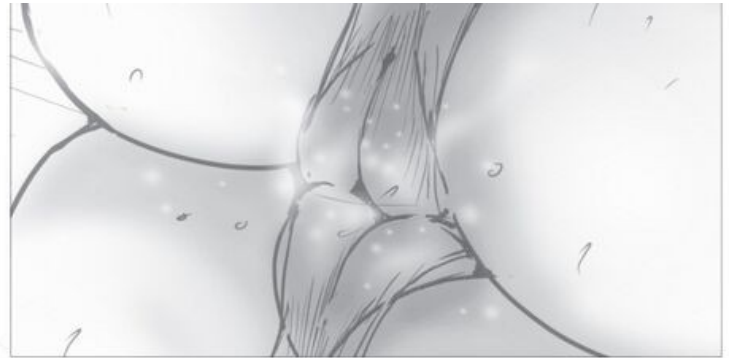
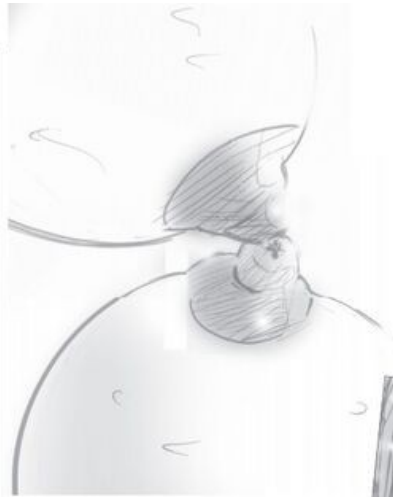
互いの女のコ同士をくっつけあって…
やっぱり先にいくのはあたしか、ももさんか…
大きなお尻が上下に揺れ、あそこをねじ込むように左右に
イヤらしくお尻を揺る。
それだけで、アミはもうまたイキそうだった。



「ん、ふん ふん んくうっ」
「あ アフ あはあ あ」
互いに、死にそうなほどの快感に必死にあらがっていた。



「ん」もう…もう…
極限に近い状態から、乳首勝負をしかけるアミ。
コリコリびんびんに張りつめた乳首の先が触れあうだけで、
叫びそうになるのを必死にこらえる。
「……………」無言で、食いしばった歯の間からツバをとばして、
下から突き上げるモモ。「あひ！」仕掛けた自分が声を出してしまふ。





「んもお だめえ〜」アミのイキ声が響くと同時だった。
「おお…アオオ…アア〜〜〜!」
股間をふるわせて、モモが激しい勢いで潮を吹きだした。
その振動につられるように、モモのしぶきがそれにまじる。





はあ、はあ、はあ、おあいこ…
まだ、カラダもあそこもビクビクし
ている。
クロスの体制で、アミはまだゆっく
りカラダを揺さぶっていた。
自分の乳房と、モモの乳房がたゆ
んたゆんた揺れている。
モモは、完全に失神しているよう
だった。



あだし、悪いコになるんだから…。
わるいごなんだから…！
まだやりたいの。
もっとしたいの！

…ももさん、泣いてもやめないんで
しょ？ やめちゃだよ…！

ぐりぐりとあそこを押しつけ、
腰を振って責め立てるアミ。

ああ、またいっちゃいそう…！



あだし、悪いコになるんだから…。
わるいごなんだから…！
まだやりたいの。
もっとしたいの！

…ももさん、泣いてもやめないんで
しょ？ やめちゃだよ…！

ぐりぐりとあそこを押しつけ、
腰を振って責め立てるアミ。

ああ、またいっちゃいそう…！



あだし、悪いコになるんだから…。
わるいごなんだから…！
まだやりたいの。
もっとしたいの！

…ももさん、泣いてもやめないんで
しょ？ やめちゃだよ…！

ぐりぐりとあそこを押しつけ、
腰を振って責め立てるアミ。

ああ、またいっちゃいそう…！

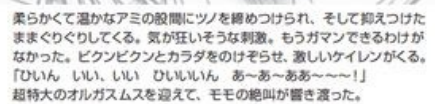
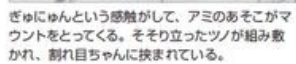
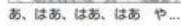


あだし、悪いコになるんだから…。
わるいごなんだから…！
まだやりたいの。
もっとしたいの！

…ももさん、泣いてもやめないんで
しょ？ やめちゃだよ…！

ぐりぐりとあそこを押しつけ、
腰を振って責め立てるアミ。

ああ、またいっちゃいそう…！





「ももさん…！ いいんちよってば…」
あらためて股間を押しつけて揺さぶってみる。
振動でモモの乳房が揺れ、その振動は自分の
乳首にも響いてくる。
「あ…」
小さな絶頂に身を震わせるアミ。

…イイ気持ち…まだ..やりたい…

より貪欲な、より淫乱な娘が生き残り、
ヨワイものが先に力尽きる。

三つ編みの委員長、アミの前に、
おさげの委員長、モモが敗者の姿を
さらしていた。
まだ、ときどきカラダにケイレンが
走っている。

モモ委員長、イキ疲れて試合放棄♡
アミは熱く火照り、
まだうすく自分の肉体を愛おしく思った。





ぶるるっという震えと同時に、
ショオオっという音が、お尻
の下で聞こえてくる。
失禁してる…
やだ、お尻びちょびちょ…

モモさんって委員長長のくせ
に、いっちゃったあと、おもら
しまで…

もう一度、カラダをゆさぶっ
てみる。
相手の娘、モモ委員長は完全
に失神していた。



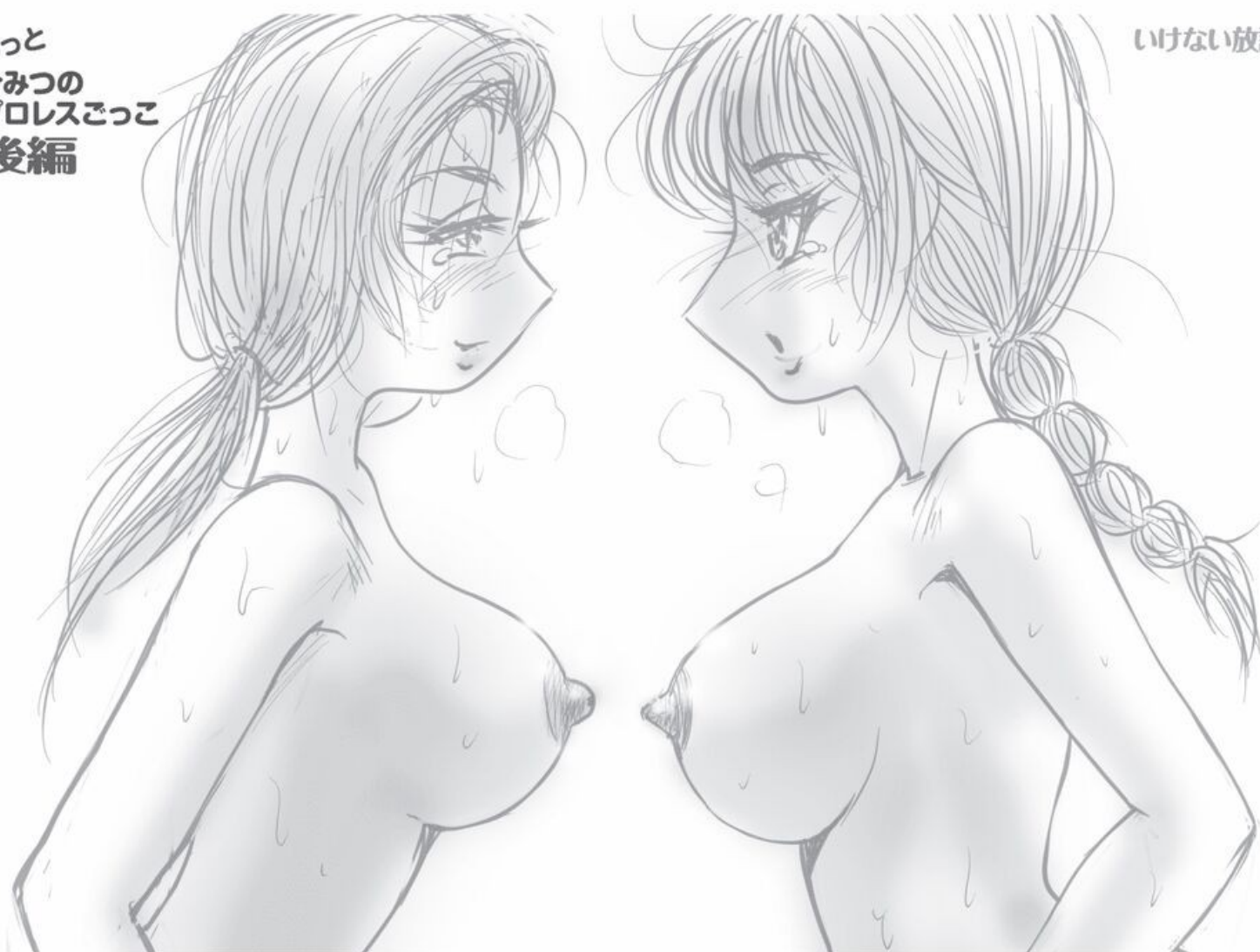
勝者、アミ。 敗者、モモさん。普通の勝利の手応えというより、
なんかもっと充実した。全然違う達成
感が身体と心にあふれていた。

…このコとはもう一度闘っても、
あたしが勝つな…
もうろうと、淫靡なバーサクモードの
頭でぼんやりアミは思った。
次は、堂々とセックスバトルのお相手
募集を出そう。
アミは、すんだばかりでもう次のことを
考えていた。
<完>



もっと
ひみつの
プロレスごっこ
後編

いけない放課後





もも vs アミ：メガネっコ同士

めがねっこの優等生、ももとアミが「シークレット・システム」で出会い、お互い初対面の相手にはじめて自分の全てをさらした淫靡な「レスリング」がエスカレートしていた頃、もう一つ世界でもリミッターをはずした「おんなコ同士のデスマッチ」が繰り広げられていた。



アミ 87-59-91
159cm 57kg

もも 88-56-90
161cm 56kg

まじめで地味な優等生、ももとアミ。レスリングの授業中での「我を忘れたデスマッチプレイ」をきっかけに、ないしょで意気投合した2人。今日も放課後、人知れず街のフリー・プレイルームで楽しむ二人っきりの、手加減ナシのひみつレスリング。

今日は一晩中しよ！
年頃の、大人のカラダになったふたりはその日、初めて一線を越えた。
互いに嫉妬をおぼえる相手のカラダを存分に楽しみ、友達同士で犯しあう。



好奇心のままに、欲情のままに。疲れを知らない少女達の、いつ果てるともされない「Hな死闘」。

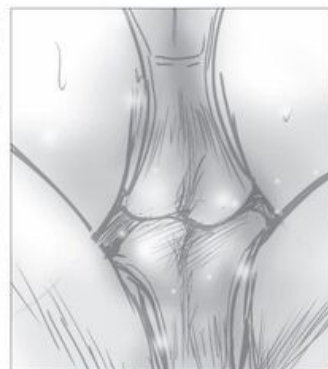
夢中になってからみあい、相手のオルガスムスの悲鳴を味わう。そして、今度は自分が切なくうめき声を上げてしまう。ギブアップしちゃっても、やめない。ギブアップしても、やめられないせックスバトル。スケベなコが勝ち…。背徳感が一層2人を駆り立てていた。

もっと ひみつの プロレスごっこ 後編

いけない放課後

友達同士が繰り広げる果てしない相賣めのシーソーゲーム。
ああ、とまんない… 触れあったところがうずきあってる…
もぉ、Hのデスマッチ…
さ、い、こ、お…
時間を忘れ、いつまでも楽しい夢のような肉欲の宴。
今まで想像さえできなかった「永遠の刹那」に酔うふたり。
エンドレスの「幸せな」時間が続いていた。





んクウ… 必死にオルガをこらえるモモ。
イクんなら、アミアミをイカせてから……いぎ…たい…！

あおう あ、ああ～～！
下になりなってる下半身が激しく
よがり狂いながらあらがっていた。





モモの性器が、ギュウムッとアミのおそこを抑えこみにかかる。
「あ... あー——！」
びゅうっと、アミアミの股間から液体が飛び出す。
それでも、それにあらがうように、それを無理に止めようとするかの
ように、股を大きく開いたアミの脚がピクンピクンとケイレンしなが
ら、それでも必死に床をばたばたと動いている。





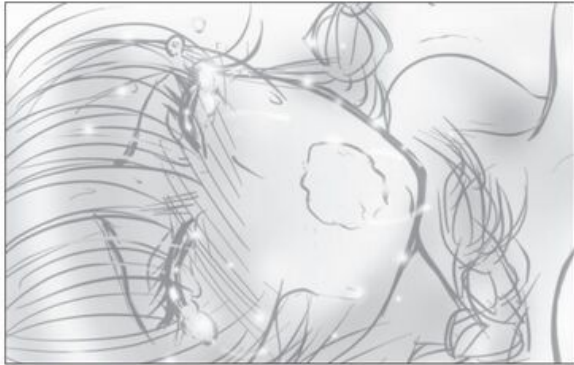
何度も何度も尻を上げ、自分の股間をアミの股間に打ちつけるモモ。
ぶつかり合うたびに秘肉がぐにょんとゆがむ。
しかけた方にも、受けた方にも同じように2人のカラダを貫く耐えがたい刺激。
打ちつけたまま、さらにグリグリ攻撃をしかけるモモ。
股間突きからの同体愛撫。それは相打ち覚悟というより、最初から相打ち狙いで繰り出されていた。

どうなっちゃってもいい あみあみ どお？
ほら、もっとよ…もっと！
「オナリながら、親友を犯してる」
そのイケナイ思いがますます H な気分を駆り立てる。

「ん…あ あ〜 あへえええ… ひいん」
可愛い声で、アへ泣きするアミ。
「もも、ももちゃん、ああ ああん あん」
…ももちゃんのぜんぶ…ほしい…もっとしてほしい
もっとうけとめよう…！

どちらも肉欲の固まりになっていた。
淫乱同士が思う存分相打ちこっこを繰り広げる。





「はあ、っはっは... あふ あふ...」
ピクピク プルル はあ、はあ...



「アミアミ、..つかれちゃた？」
自分もかなり激しく息をついている。



「えいっ」
むにゅ きゅ
おっぱいと乳首が音を立てるみたいな感
触。
「ア~~~~~!」

やっぱり、こっちもピンピン!
あんなにイッてもまだ欲しいんだ
...すけべっこ (笑)

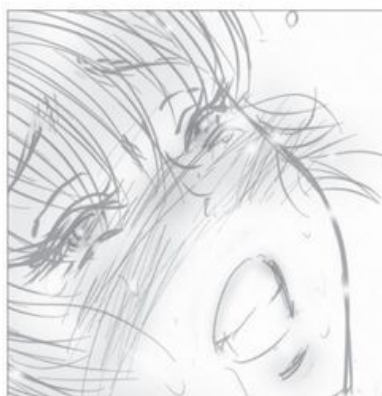
もみもみもみ
ああ、あふ...あふ、はあ、はあ はあ
悶えあえぐアミを見ているうちに、自分
の乳首も再び固く勃起して、ヌキたくて
たまらない気分になってくる。
...ハア ハア あたしも同じね...
こんなに、エッチが大好き
アミアミともっともっとやりたい

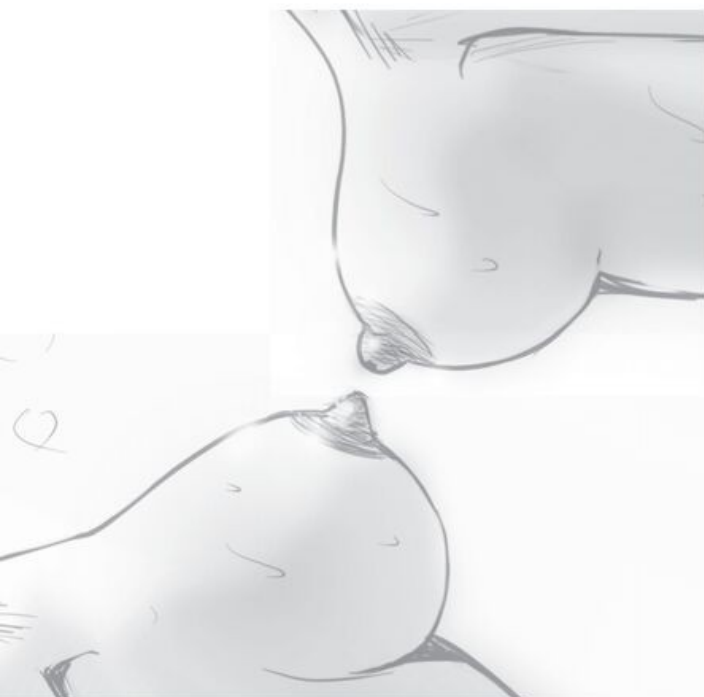




「はうー！」
アミの手が下からムニツとくる。
反撃の瞬間、小さくオルガ震えるモモ。







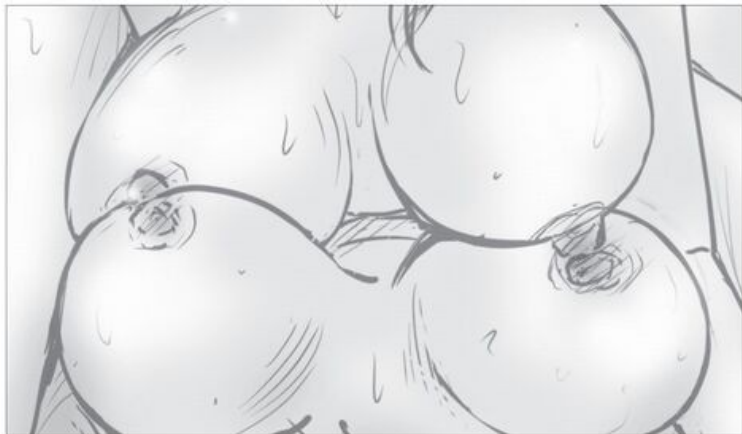
「ん...♡」
「あふ...」
今度は、おっぱいでしょうぶ...
モモは、重く張りつめた乳房を
ゆっくり同じように張りつめたアミの乳房に乗せた。
互いの乳首が、互いの柔らかな肉に
食い込んでくる。

からみあってる中で、おっぱい同士が
くっつきあい、乳首が擦れ合うのは
ふだんでも決して珍しいことではなかった。
しかし、お互いに自分の乳首と、
相手の乳首に集中して重ね合うのは
いつもとはわけが違った。

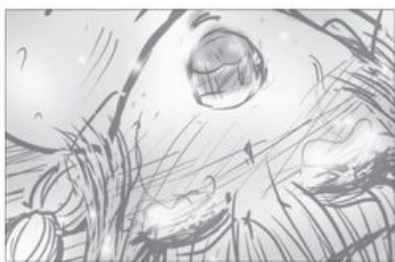
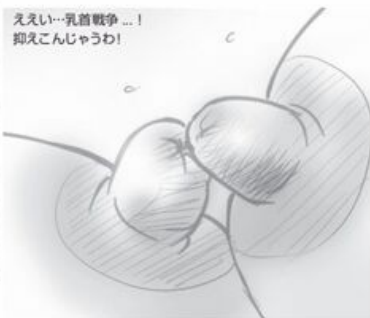
乳首の相責め。
ああ、また相打ち...？
ん...や...
勝ちたい...！
上からのしかりながら、
モモは勝利が欲しいと思う。

んあ あ...
まけない...から...
受け身の体制...
だけど...
アプアプいいながら、
アミも闘志満々だ。





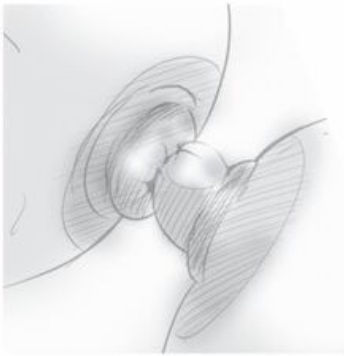
ええい…乳首戦争…！
抑えこんじゃうわ！



あたしだって、かっちかちなんだから
ねじ込んでやるんだから！



ふああ~~~~！ 熱く、ぶっつい乳首をねじ込まれ、アミのイキそうな悲鳴が上がる。



上から、ウンウンと押しつけるモモ。
下から、ふうんんと胸を突き上げるアミ。
乳首同士が触りあい、乳房の中で絡みあう。

んああ あああ
激しいよがり声をはりあげて、今度はモモ
が耐えかねたように体をふるわせた。





抑えつけていたモモの力がゆるむ。
アミはその瞬間を逃さなかった。
ぐりんと2人の体制が入れ替わり、アミアミの
肉体がのしかかっていく。
よくある懐かしいとっくみあいと違って、股
間で股間を組み敷いていくような、ムニムニと
した感触と、のろのろとしたゆっくりの動きに、
それだけでも2人とも射精しそうだった。

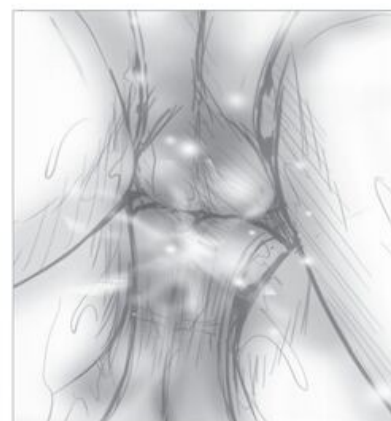
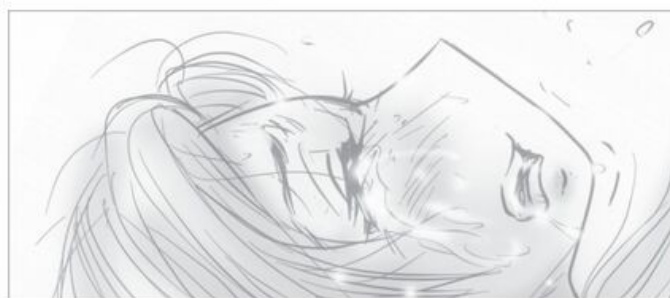
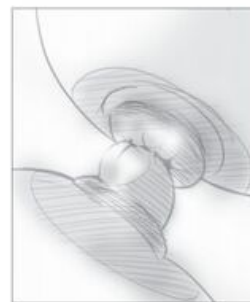




ピストン運動のように、アミが股間を相手にぶつけ、ねじ込んでゆく。
「ひああ ああん」「あうー」「ひゃうー!」「ああ ああ〜」
責めながら泣き、責められて泣く2人の、なまめかしいあえぎ声が、
いやらしい激震をめちゃくちゃ淫靡に盛り上げる。



「んがア…！」
「はうん！」
舌しませのカニばさみだった。
モモのカニばさみが胴体を挟みつけた同時に、
アミの股間から汁がびゅっと飛び出した。
しかけたモモの股間からも液体があふれ出す。

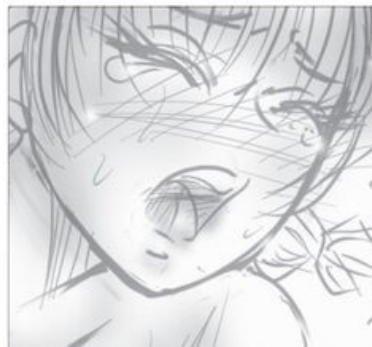


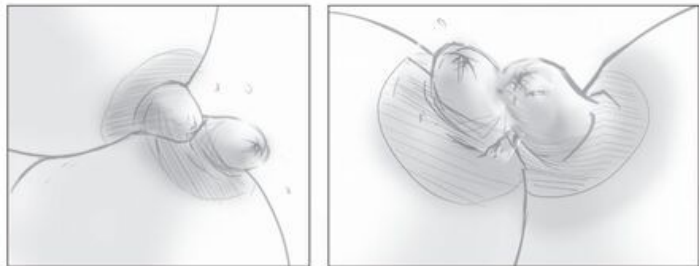
ひとりは上からボディプレス、ひとりは下からカニばさみにとらえた脚をほどかないまま、なおしばらくの間その体制…体位を維持するふたり。やがて、下のこの股間が耐えきれないように、同じようにプシュウッと泣きを入れた。



カニばさみが解かれても、なおも闘いをやめない…アミは挑み続けていた。上から、重たくなった乳房を乗せても、つぶれない…つぶせない！ それどころか、はじき上げてくる…

股間を激しくすりつけあいながら、同時におっぱいバトルが繰り広げられていた。





つんと固くつながった乳首同士が相手をはじき合い、股間でも、そそり立ったツノ同士がこすれあい、まるで刀のつばぜり合いのように、こそぎ合っている。ヒザで相手のヒザ裏をおして脚を無理矢理広げさせ、さらに深く、下から突き上げる。見た目はパンツにガードされてる秘部だけど、王女のパンツは素肌とほとんどかわらなかった。時々、陰毛同士がじゃりじゃりこすれ合い、毛が絡みあって、動かすと痛くて涙が出た。

「あ。あ。あ…だめあ、アミアミい！」
 たまりかねてモモが泣きを入れるけど、あたしだって、もう死んじやいそう…！
 どっかが動けなくなるまで…ん、きつと、動けなくなったら、もっとやられちゃう。
 でもかかってくるなら、もっとやれる もっと…！
 性欲勝負…ももちゃんに負ける気がしない！
 「ああ～ あ～ あ～～！」
 「う…くううう…」
 ほとんど同時に、激しく体をふるわせるふたり。



「いあ あ…」
言ったばかりのはずの相手に抱き締められ、悲鳴を上げるアミ。
「ん、ううん ウン ウン!」
むにむにと、下乳にモモの乳房がもぐり込み、おっぱいはち切れそうになる。
「あ、あ、あ」
そのまま…抱き締めたまま揺さぶるモモ。
「ひ あひ あおおお〜!」
アミアミの肉体がぶるぶるとふるえる。たてつけのオルガスムスに襲われてる。まだ離さない。
力をゆるめてはまた抱き締める。気持ちいい。
「んあああ〜 ああ、ああ…」
アミが三つ編みを振り乱し、首を振って泣き叫んでいた。

抱き締められてイっちゃうなんて
ああん…大好き…
アミちゃん あたしもよ…!
体をのけぞらして、おもいきり…
「んあ〜 あふ あふ」
やだ…力むたびに、あたしも…
それでも…

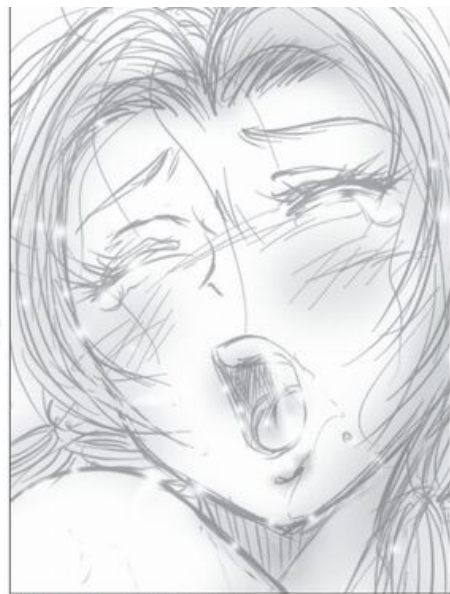
「ももも、も、もも、もお…」
今度はアミが泣きを入れる。
ん、もういち…どお!
「くあ ……」
声もなく、
のけぞってケイレンするアミ



「あ… あ…」はあ、はあ、はあ…
抱き締められて…こんなにイっちゃうなんて…
ふるふるふるえながら、アミは両腕を後ろに伸ばしていく。モモの腕をふりほどこうというのではない。大きく開かれた股の太ももから、手を滑らせて、相手のヒザを探り当てた。



「ええーい」「きゃあッ」
密着させた互いの秘所が突き出され、押しつけられあっていた。ぐりゅんぐりゅんとスジを中心に割れ、変形した秘肉がはち切れそうになって互い侵食しあっている。
電流が体を駆け巡るような刺激を抑え込んで、腰を落としてぐいぐいプレスしてゆくアミ。
ぐりゅんとゆさぶるたびにかみしめた箇の膣から「ひいん」という声上がり、アミのお尻がピクピクケイレンした。
「アオオ おう おう」と、モモもケモノのようなあえぎ声を上げていた。
必死に逃れようとする脚をしっかりと押さえ、うにゅんうにゅんとお尻を卑猥に振っての圧倒勝負。
捨て身のおまんこ同士の間が緩り広げられていた。



「だめえ……あひ ひあああああ〜！」
ぶしゅうっと、ももがこらえかねてあそこから液体をまき散らした。





「あ… あ……」
一瞬完全に意識が飛び、
かなり大きなケイレンにビクビクと
からだをふるわせるモモ。



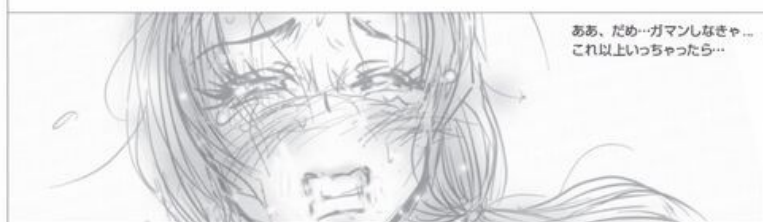
さらにカラダを前にずらして、完全に「まんぐり返し状態」にしながら、なお責め立てるアミ。
豊かな乳房が波うつたびに、モモのどがった乳首がこすれるのがすごく気持ちいい。
びゅるっつと潮を吹き、体をふるわせるアミ。
「あッ…！」 あ、またいっちゃった…！
「はう…！」
ビクビクビクッと、ほとんど同時にモモもまた後を追うようにオルガスムス。

ああ…あたし…イキまくっちゃってる…
ももちゃん…ツヨイ…！
こうなったら…
（もっと…もっとはげしく…！）
アミは、うにうにと股間同士をこすりつけながら、ゆっくりと体制をかえていった。





「ひい…ん！」
「ん… (ひいひい〜)」
ふたりの可愛い悲鳴が上がる。
あたしがイキ疲れちゃうのが先か、
モモちゃんがイキ疲れるのが先か…
片足を踏み込んで、体重をかけていくアミ。



ああ、だめ…ガマンしなきゃ…
これ以上いっちゃったら…



だめ、出ちゃう…



「あふ あふ あみ あみちゃん もう…」
ふたりの大きなおっぱいが留ましく波うつようにゆれ、
モモは泣きながら頭を振ってうたえていた。
アミは体をゆすって、ぐりぐりと股間をモモのあそこに押しつける。
いったばかりでも、アミもう声が出そうだった。

「が ま ん く ら べ…!」
肉欲にまかせて快楽にふけるって、最高…。だけど…
やっぱり、相手がオルガスムスにフルフル震えてる顔を見ながら
イク方が、なんかもっと気持ちがいい!

じらすように動きを止め、そして股間で円を描くように責めてみる。
モモのツノが、アミのワレメにしこかれていた。
「あ ふああ! あ! あは ア あ〜〜」
モモが大きく体をのけぞらせ、体を激しいケイレンが襲う。





「ん、ウン…ウン!」「あひ…あひ ひいん…!」
可愛い声で泣きまくるモモの胸元に、アミもまた理性を失いそうになっていた。





「ん...くう...」
少しずつ、必死に体を起こそうとするモモ。
あたし...もうずっとやられっぱなし...アミアミに.....
泣かしてやりたい.....泣かしてやるんだからあ!



「きゃあ あっひいっひい〜！」
アミが悶え、白くモモのようなおっぱいが激しくのたうっていた。

「えい えい えい えい」
アミにひけをとらない立派なものの乳房の激しい動きが、激しい攻めを物語る。



「ふあ ア あ」だめ イク…イっちゃう…!
アミが体を起こそうとするたびに、モモは腰を使ってそれを抑えこんでいた。ぐりぐりしてはわざと間を開け、今度は回転運動…ああ、いっちゃいそう…!
くがまんくらべ> さっきのアミの声が頭の中で響いていた。イキたいのをガマンして我慢しているうちに、涙があふれてくる。

さっきのおかえし… ワレメにあたるアミのツノが、何かに挟まれた。ひ…く…あ、そこ それ……!
気が狂いそうな刺激に、アミはマジ半狂乱になって悶え狂った。





あ~~~~~!



抑えこんだモモの股間のす
き間から、激しく液体がほ
とばしる。びゅるうっとい
う温かい汁の勢いが、せり
出したあそこのツノをかす
めていく。だめ…!
「っひいん..!」
流水の絶妙な刺激の前に、
モモが身体をぶるっと震わ
せた。



「やったな～～！」「あ～～！」
「…ガマンするとカラダ、重くなるね…」
そのせいか、大きく又かれた後は、心地よいけだ
るさもあるけれど、体が軽い…
こうなったらもー、どっちが先に腰が立たなくなる
かってかんじかな…
「ほらモモ！ レイブ.. こっこお...！」
ぐりん ぐりぐり
「はうう～～～！」

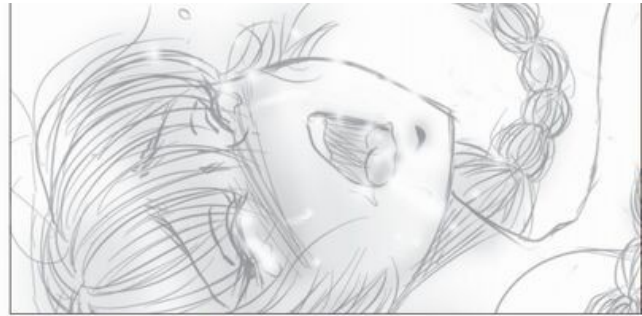


「ひいひいん！」
ふしゅっと、今度はモモの潮吹き
がアミの股間を襲う。
あったかくって、気持ちいい。
相手の「女のこそもの」がびくび
くと悶える動きがじかに伝わって
くるのも最高♡
えい、えいって、カラダを上下させ
て体重をかけてやる。
「はう はうん」翻弄されて上げ
るももっちの声は、いつものギブ泣
きよりもかわいくて、小気味いい。



「アミ! そんな程度? もっと犯してよ!
もっと犯しちゃうから!」
おかしちゃう...その言葉で興奮しちゃう...!
友達とセックスごっこ... セックスバトル?
ううん もう、セックスよ セックス!
モモも狂ったように相手を求めている自分を、
もうどうしようもなかった。

「アミ、まいった？ まいってっておいしい！」
ぐいぐいと全体重を相手に預けて叫ぶモモ。
「の————！ モモちゃんこそ…モモちゃんになんて負けないい！」



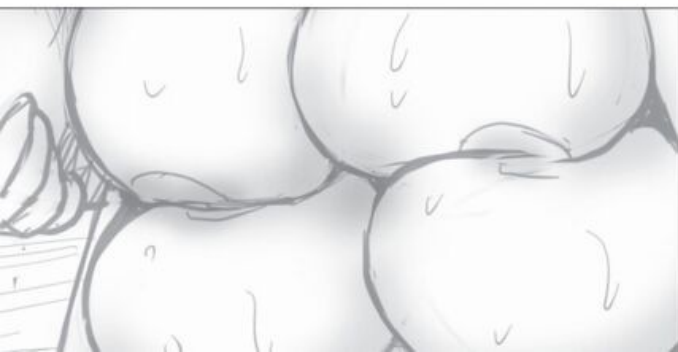
「の————！ ああ～～～ん！」
（ああ、モモちゃんの重さが、熱い体が…のしかかられて気持ちいい
ビクビク…

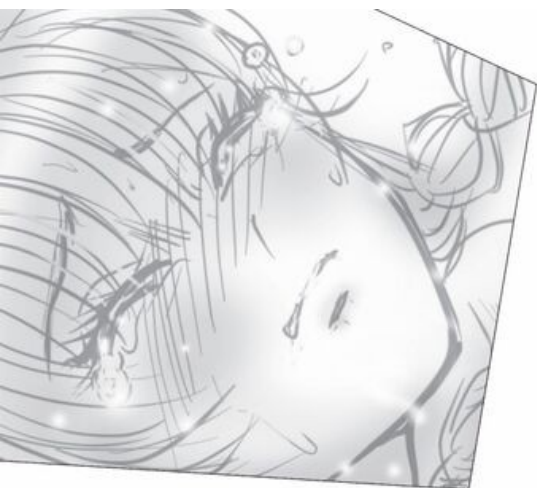


あたしだって負けないんだからあ
（熱いアミちゃんの肉体…柔らかな
カラダ…のしかかって、くっつきあっ
てるの…さいこお…）ブルル



「あみあみい もっと、もっと強くだきしめてえ」
「ももちゃん もっと強く もっときてよお!」
上からのしかり、激しく体重をかけるもも。
アミは、下からももの胴体に両腕を巻き手づけて締め上げる。
すぎ… 大好き…!
あいてる
狂おしい思いのままにぎっちり密着した肉体が、
なおも相手を自分の中に取り込もうとするよう
に、互いを求め合っていた。



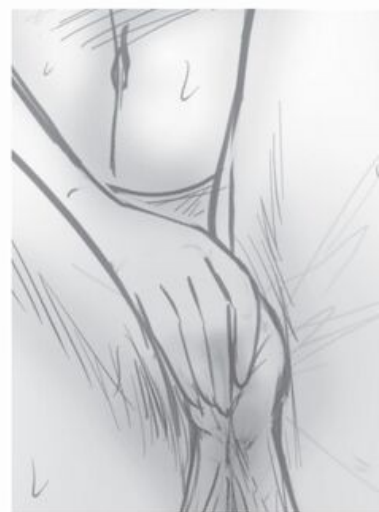


あ、い。イク...
まだ...まだあ...!
今にもイキそうな高まりを、必死に抑える
二人。
どっちがギリギリまで ガマンできるか..
セックス勝負...やっぱり、勝ちたい
勝って、イキたい...!



「あひ ああ~~~~~!」
やがて、負けた方の絶頂声上がり、それにかぶさる
ように勝った娘のイキ声がかんだ。





「アミアミ♡ これで終わりじゃないよね♡
もっとイク?」



「あ、だめ ももちや...! ああ〜〜ん アン アン」
アミのおなかにまたがって片脚をかかえこむと、
股間への直接攻撃を始めるモモ。
ぎゅっぎゅとやるたびに、
脚がピクンピクンと震れ、
かわいい涙声上がる。



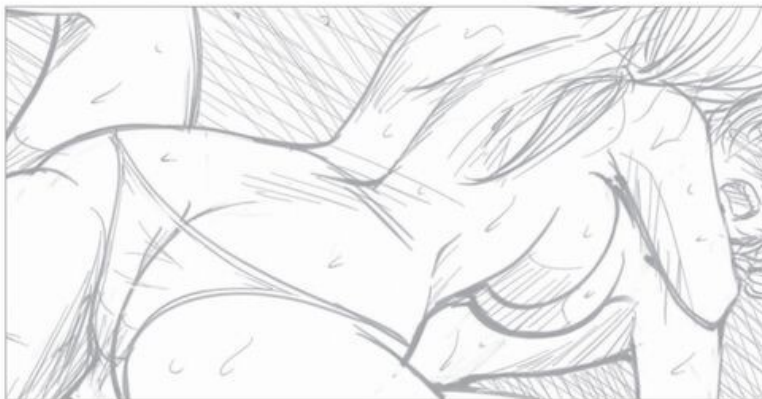
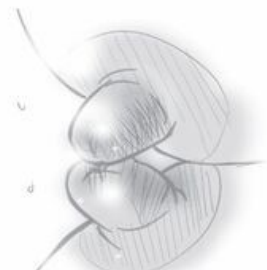
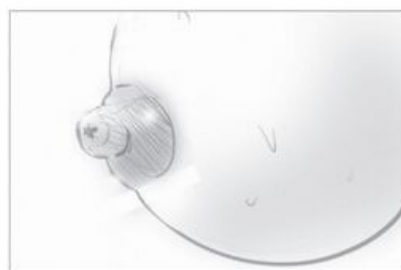
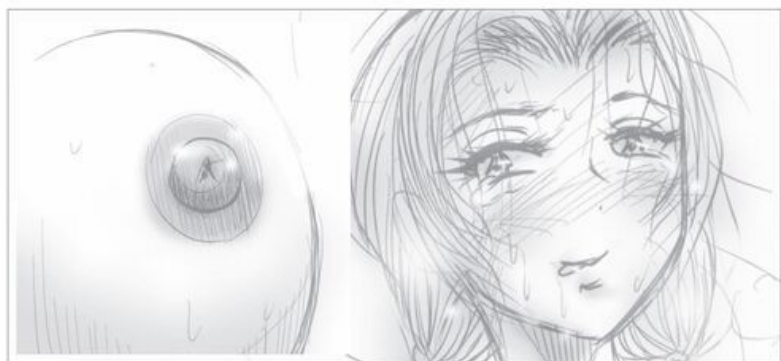


「ほらあ、少しはガマンしなきゃ…ガ、マ、ン！」



「あ、あ、あ……！ だめ……やめで… ももちゃんやめ…」





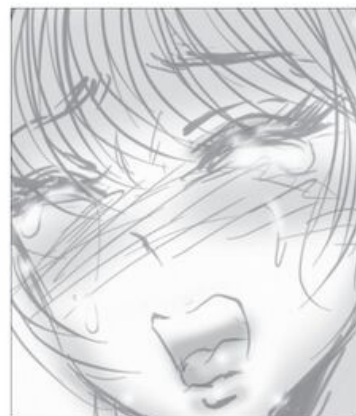


体中をべったり相手の肉体にくっつけるようにして、抑え込む。そのまま、うんうんとカラダを揺さぶって体重をかけてやる。当然、あの部分も完全に密着させて…

「ああん あうう あう アン あん あん」
犯され声を上げて苦しがるあみ。カエルのようにだらしなくひろげた脚が、モモの動きに合わせて宙を踊った。



「ももちゃん 重い…おもしろいよ…」
苦しげにうったえるアミ。
「ん、んん、んん〜」
ぎっしぎっしと責めるモモの動きが止まり、二人のカラダにビクンビクンとケイレンが走る。
圧倒的に有利な体制を、もう全然いかせずに自分もオルガスムスを迎えるモモ。いいの…！ 一緒なんだから…なんどだって！



「あみあみい…!」

アミの乳房に両手をあてがい、揉みながら責めていくモモ。

「ももちゃん もう、もうやめで…」といいながら、アミも下からモモの乳房に

手をあてて、同じように揉み返し、揉みしだく、

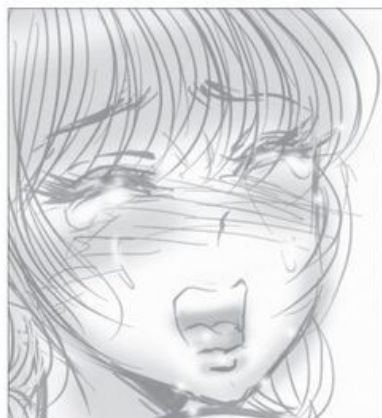
無意識に近い乳房の揉み責め合いに、再び息を荒くする二人。





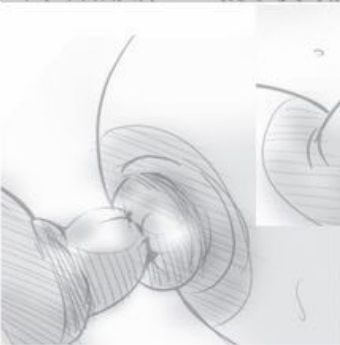
「ふああ！ もおだめえ！」
激しく噴水を噴きだすミ。





あみちゃん…
くちびるを重ねると同時に、
今度はモモが激しく潮を吹いた。





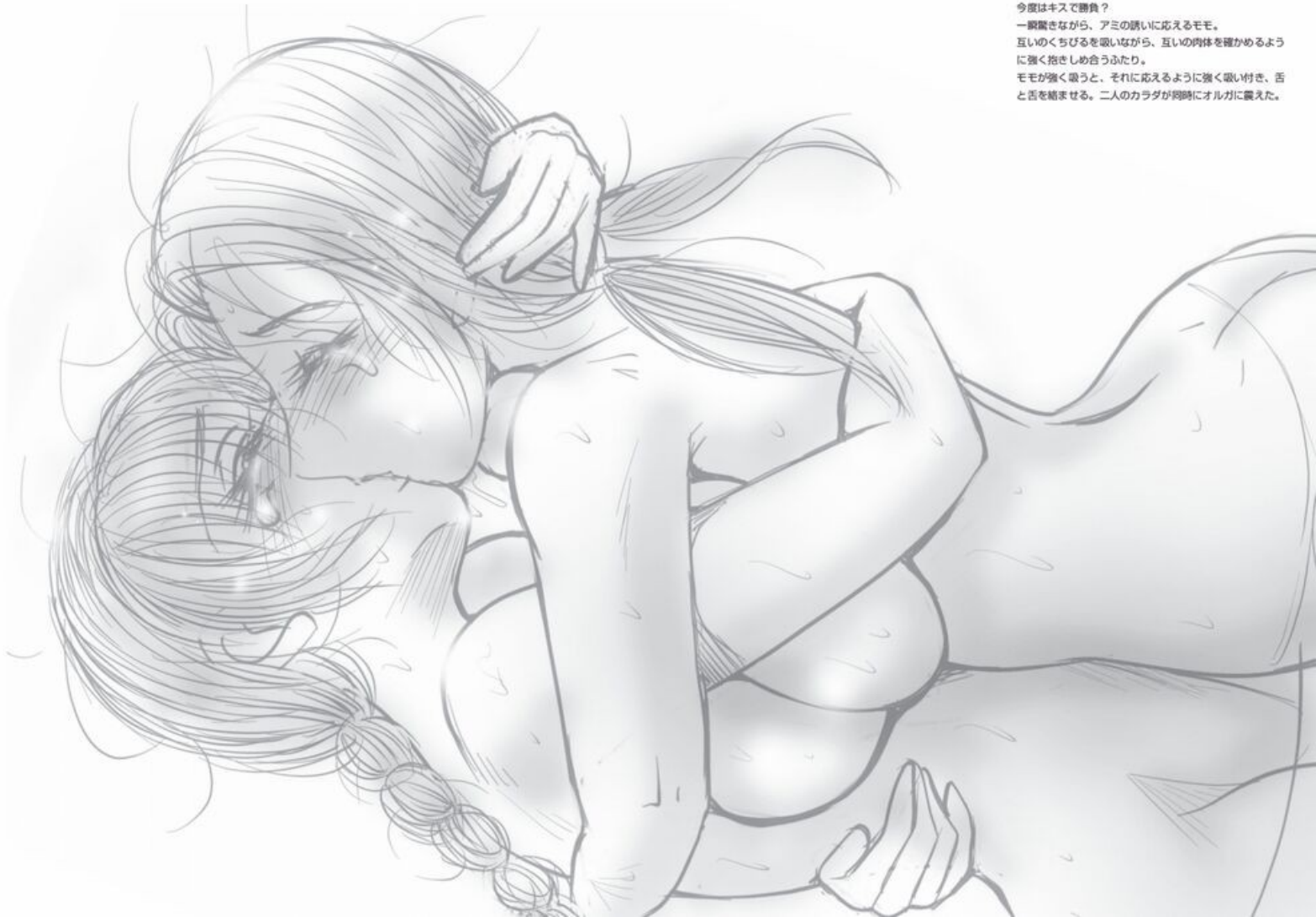
押しつけ合った乳房の中で、
乳首同士がぐねぐねからみあい
組んずほくれつ…してる…
ダメ だめえ…



「あみちゃん、こらえない！ ほら」
「ももちゃん あたし…乳首ダメかも…」



今度はキスで勝負？
一瞬驚きながら、アミの誘いに応えるモモ。
互いのくちびるを吸いながら、互いの内体確かめるよう
に強く抱きしめ合うふたり。
モモが強く吸うと、それに応えるように強く吸い付き、舌
と舌を絡ませる。二人のカラダが同時にオルガに震えた。





ももちゃん…（もっと…）
下から相手の首に手を回し、半開きに開かれたものの
くちびるに吸いついていくアミ。



「ああ ああみちゃあ〜ん！」

「もも ももちゃあ〜ん！」

ざしざしと抱きしめあいながら、互いの名を呼び合うふたりを、

激しいオルガスムスが襲う。

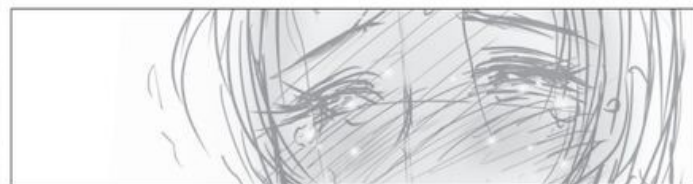
もうダメと叫びながら、求めてくるアミ。

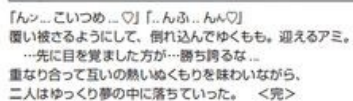
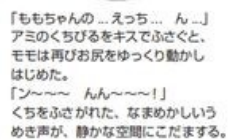
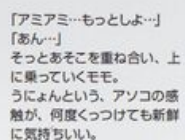
主導権を握ったようなそぶりをしながら、情けなく抜かれるもも



「はあ、はあ、はあ…ももちゃん…
ももちゃん… あたし…at.」
うわことのように、アミは相手の名を呼
んでいた。まだからだがかくかくケイレ
ンしている。
も…うけないよお…

「はあ、はあ、はあ…
アミアミ…あいしてる…」
同じようにカラダをひくひくふ
るわせながら、モモも相手の名
を小さな声で連呼していた。
もお…しんじやいぞ…





2020.07 PDF 発行
© Meto

萌えレス 25
アマゾン・ワールド



死闘メガネっ娘
地味ッ娘
秘めレスリング 3